

# スイスにおける出産・育児のあり方を学び将来を考える

行先：スイス ジュネーブ

期間：2018/2/19~2018/2/24

2年 粕谷ありさ

## 渡航先での活動内容

目的：スイスにて医療に携わっている専門家及び現地に出産を経験された方を訪問し、スイスの出産に関わる医療現場の実際と出産・育児をとりまく文化、社会的支援等について学ぶことにより、日本での出産・育児をよりしやすくするためのアプローチを考えるための参考とする。それらを踏まえ、将来の自分自身の働き方や生き方を模索する。



Broken Chair



WHO Office



United Nations Office



Biel/Bienne station



View from San Pietro Cathedral



JTI Office

・ジュネーブWHO本部を訪問しWHOメンタルヘルス部門 コンサルタントの方と面談。WHO構成員やキャリアパス、メンタルヘルス等について学ぶ。

・ビエヌにて児童館や産前産後ケアを行うHIDAMARIの経営者/看護師と面談。スイスでの出産や育児を取り巻く環境や看護師として働くことについて学ぶ。

・シャンバジーにて、日本とスイスでの出産・育児経験、タイでの手術経験がありスイスに20年近く暮らしている方と面談。スイス生活や出産育児の苦労体験、助産に関わる医療の諸問題について学ぶ。

・JTI本社オフィスを訪問し、5ヶ月前に出産され2児の母でありながらお仕事をされている方と面談。スイスと日本での出産育児環境の違いや仕事と両立させながらの働き方等について学ぶ。

・ジュネーブにて、日本とスイスで出産育児経験があり、日本企業で研究職をしながら出産育児をされた経験もある女性と面談。仕事との両立、制度上では男女平等を謳っていても実現されていない現状問題、日本とスイスでの出産育児環境について学ぶ。

## 目的を達成できたか

目的としていた、スイスでの出産・育児をとりまく環境や文化を日本と比較しながら知ることができ、目指すべき社会の形が見えてきました。特に、スイスはほんの数十年前には女性の社会的地位や出産・育児に対する社会の考え方がちょうど今の日本と似ており、それから今に至るまでに、フランスの進んだ考え方が入って来たり、残業をなくす動きがあったりとさまざま変革を経て、子供を産み育てやすい今のスイスへと変わってきたという経験があり、そこから学べたものは大きかったです。

## グローバルな視点とは何か

自分の国を知るには、一度外に出てみる大切だと感じました。WHOで研究者としてお仕事をされている方もおっしゃっていましたが、海外にいて違う視点を持てるようになり、国内には気付くことのできなかった新たな問題に気付くことができます。グローバルな視点とは、客観的に別々の国同士を比べることができ、それぞれの良い点と悪い点、取り入れるべきことや学ぶべき教訓を知ることができる視点なのではないかと思います。

## 将来の進路決定へどう影響したか

まずは看護師として現場を知ることから始めたいと思う気持ちには変わりありませんが、特に仕事をしながら女性が出産・育児をしやすい環境を作ることを考えた時に、アプローチできる方法は色々あり、病院でできることももちろんありますが、企業やそのルール作りをする大きな組織、また地域社会で支える相談施設や育児施設など、さまざまに検討の余地があったと感じました。男女平等の本当の意味での実現や出産・子育てなどに対する考え方の改革で日本の数十年先に行くスイスを知る方々にお話を伺えたことは大きな刺激になり、希望が見えました。将来のキャリアだけでなく、自分自身のライフプランを見つめ直すきっかけにもなりました。海外で活躍されている日本人の姿を見られたこともとても良い経験になったと思います。

## 目的以外に学んだ点、反省点

子育てのしやすさにも関わってくる点かもしれませんが、スイスに行って驚いたのは、スイスの人々の親切さです。重いスーツケースを持って電車に乗ろうとしたら、近くにいた男性が「手伝うよ。」と私の返事も待たずに代わりに運んでくださり、さらにそのまま目的の駅のホーム外、宿泊するホテルの見える場所まで案内してくださいました。日本ではそもそも手を差し出す人が少ないだけでなく、「手伝いましょうか？」と控えめに問かけける文化なので、大変驚くと同時にとても助かりました。他にも、旅先で出会ったスイスの方に親切にさせていただくことが多かったです。

反省点としては、今回の渡航ではスイスの西側、フランス語圏の方にしかお話を伺えなかったことが挙げられます。東側のドイツ語圏では文化がかなり異なるようなので、対比できたらもっと面白かったかもしれません。チャンスがあればドイツ語圏の分化も詳しく知りたいと思います。

## 後輩へのアドバイス

当学科の海外研修は、自分で計画を立てて申請をし、渡航して帰って来るところまですべて含めて良い経験になります。一般的な海外研修のように他の誰かが企画しお膳立てをしてくれたものに乗るよりも、自分でテーマを持って、興味関心に従って行きたい場所に行き会いたい方にお会いできるほうがずっと満足感が高く実になりますし、自身もつくと思います。

最初はふわっとした目的でも、色々な方に相談するうちに次第に見えてくると思いますので、ぜひこの研修支援制度を活用してみてください。

## 研修支援制度に望むこと

いろいろな方のサポートにより、この研修を実現できたことに大変感謝しています。この素晴らしい研修支援制度が他の学部や学科にも広まったらより多くの学生が海外で良い経験を積めることと思いますので、学科外にも発信していけたら良いのではないかと思います。